

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 30 日現在

機関番号：37304

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010 年～2012 年

課題番号：22520452

研究課題名（和文） 危機言語サオ語（台湾中部）の記述研究及び仮名で記録されたサオ族伝承物語の分析

研究課題名（英文） A descriptive study on Thao language in Taiwan as endangered languages and analysis of Thao' s folk stories recorded in Japanese kana

研究代表者

新居田 純野 (NIIDA SUMINO)

長崎外国語大学・外国語学部・国際コミュニケーション学科・教授

研究者番号：30532915

研究成果の概要（和文）：文字をもたないサオ語を保存するための勉強会で使用できる文字資料として、現地調査で得た言語資料の分析・考察をもとに「サオ語語彙集」「サオ語基本文法書」「サオ語文型集」を作成した。また、話者の激減しているサオ語の保存のために、サオ語話者の日常会話やサオ族の伝承物語をサオ語の音声表記によってテキスト化した。

研究成果の概要（英文）：As character data, that can be used to study sessions in order to save the Thao Language that does not have a character, I made some textbooks : "Thao language Vocabulary" "Thao language basic grammar book" and "Thao language sentence pattern files". In addition, for the preservation of Thao language being depleted of the speaker, I made the text of the phonetic transcription of folk stories and daily conversation of Thao language speaker.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：サオ語、台湾原住民語、談話、伝承物語資料

1. 研究開始当初の背景

(1) 文字を持たないサオ語は言語資料が乏しいことに加え、近年若年層を中心に漢語化が

著しく、消滅の危機に瀕している言語であり、話者が存命するうちにできるかぎりの調査

と記録の必要に迫られている危機言語であった。

(2) 文字を持たないサオ語の記録に、一人の高齢サオ語話者が仮名でサオ語や民話を記録しており、この貴重な資料に音声記号による文字化及び文法分析を加え公開することは、サオ語本来の姿を明らかにし、統治時代の日本語教育の意義を明らかにすると同時に、これまでに類を見ない、日本語による原住民語の記録という点で、非常に貴重な資料になると考えられた。

(3) 本研究代表者の過去 8 年間におよぶ広範な調査でも調査可能な話者は 10 人にも満たず、特に文法の詳細な調査が可能な話者は 5 名以下、実質 2 名(80 代、70 代)に絞られているという話者数が極めて少ない言語であった。

(4) 2002 年から 2009 年にかけて本研究代表者はサオ語の基礎語彙、文法項目、談話テキスト、民話等の現地調査をし、2007 年 10 月には『石阿松氏のサオ語語彙集 4000—‘仮名’が記録した太平洋の“危機言語”』、2008 年 10 月には、『サオ語(台湾・邵語)語彙(英語・日本語索引付)——サオ語研究資料 II——』を刊行し、またサオ語の文法記述に関しても論文を出し、発表もしたが、サオ語を体系的にまとめられていた状況ではなかった。

(5) ほとんど話されることもなく消滅の方向に向かっているサオ語を保存しようと、2005

年頃からサオ族の若い世代が自主的に本研究者の被調査者である 80 代の男性を指導者としてサオ語学習を始めていたが、サオ語を学習するためのテキスト等は十分とは言えない状況であった。これは、先行研究の多くはサオ語の音韻・形態を中心に研究が進められており、多くの論文は英語で書かれた学術書であったからである。2003 年 Blust 博士によって出版された *THAO DICTIONARY* も「サオ語の音声表記⇒英語」辞書であり、次世代のサオ族の若手が勉強するために使うのには難しい状況であった。

(6) サオ語学習のために参考にすることのできる談話テキストや文法解説書は皆無であり、本研究の被調査者である 80 代のサオ族男性が、自身が仮名で記録したノートを頼りに勉強会をおこなっている状況であった。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、話者数の極めて少ない、台湾原住民サオ族が話しているオーストロネシア語系の言語サオ語を危機言語の観点からフィールド調査をおこなったうえで、その調査結果を公刊し、得られた研究成果をサオ語の次世代への継承のため、現地社会に還元することにある。

上記のような研究開始当初の状況において、本研究ではまずはサオ語学習者への文法書を提供することを第一の目的とした。

(2) サオ族に残されている何点かの民話のテキストがすでにあったが、その数は少ない。そこで、本研究では、これまでにまだ公開さ

れていない民話のサオ語の音声表記による書き起こしとサオ語話者によって語られるサオ族の日常生活を同様に音声表記で文字化して、サオ族のかつての生活を記録として残すことを第二の目的とした。

(3) サオ族同士のサオ語での自然談話を文字資料及び音声資料として、現在日常的にはほとんど使われなくなっている自然なサオ語会話を後世に残す貴重な資料とする。

### 3. 研究の方法

現地調査によりさらに多くのサオ語資料を収集した。また、既存資料の整理中に生じた不明点を被調査者に確認しながら、音声表記による文字化及び、詳細な分析・解説を加えたテキストを作成する。さらに、被調査者が日本語の仮名を使って記録しているサオ語をサオ語の音声表記によって書き起こしなおし、文法的な解説を加える。

サオ語話者同士の談話を収集し、同様にサオ語の音声記号による談話テキストを作成する。

### 4. 研究成果

#### (1) サオ語語彙集の作成

この語彙集の特徴は、これまでに作られたサオ語-英語の対訳ではなく、サオ語／日本語／繁体字中国語／英語／音声記号の表記が示され、台湾におけるサオ語学習者が使える形式のものとなっている。また用例も載せてあり、その使い方の確認が可能となっている。

#### (2) サオ語の文法書の作成（日本語版、英

語版、繁体字中国語版）

サオ語文法書は以下の項目における解説及び用例を載せてある。これまでこのような広範囲な文法項目について扱った文法書はなく、サオ語を学習する人にとって初めての全体像をつかみながら学習できる文法書となっている。この文法書には、サオ語話者六名による発話を記録した基本文型集も収録してある。現段階では日本語による解説のみとなっているが、今年度中に英語及び繁体字中国語の解説ものせる予定である。その段階で出版をする。

#### 【サオ語文法目次】

- I 発音とアクセント
- II 文法篇
  - 1. 語順
  - 2. 存在／所有
  - 3. 名詞
  - 4. 形容詞
  - 5. 動詞
  - 6. テンス／アスペクト
  - 7. 否定
  - 8. 小辞
  - 9. 可能／自発
  - 10. 授受
  - 11. 疑問詞
  - 12. 比較
  - 13. 複文
- III 基本文型集

#### (3) サオ語談話テキストの作成

本研究の被調査者の子どもの頃の生活状況や両親について、青年時代の生活等、またサオ族の巫女たちの会話、サオ族同士の日常会

話などを音声表記で記述したサオ語談話テキストを作成した。

#### (4) サオ語文法論文

本研究開始時には、これまでの研究成果としてサオ語の文法に関する本研究代表者の研究論文「存在・所有」「否定」「可能」「焦点接辞」「evidentiality」「兼語構造」「指示詞」「授受表現」「テンス・アスペクト」「語順」「複文」等があったが、本研究では、さらに「サオ語の複文」「サオ語の小辞」「サオ語における状態性を表す ma-接辞」「サオ族における親族関係の用語」を執筆し、本研究目的のサオ語文法書作成資料とした。

(5) 日本語の仮名で記録されたサオ族の伝承物語のサオ語音声表記によるテキスト

80代サオ語話者が仮名で記録したサオ語によるサオ族の伝承物語、および、日本語で語ったサオ族の伝承物語をサオ語で話してもらい、その内容を記録し、音声記号による文字化と文法分析を加えてのテキストを作成した。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計7件)

- ① 新居田純野「サオ語における状態性を表す接辞 ma-について」『長崎外大論叢』、査読有、16号、2013、pp.125-130
- ② 新居田純野「書評 『台湾日月潭に消えた故郷 流浪の民サオと日本』坂野徳隆著」『台湾原住民研究』、16号、2013、
- ③ 新居田純野「80代サオ族男性が日本語で語る台湾原住民サオ族の伝承物語と昔の生活」II. 生活編『台湾原住民研究』15号、風響社、2012、pp.142-162、

- ④ 新居田純野「人関係の語から見えてくるサオ族の社会」『長崎外大論叢』、査読有、15号、2011、pp.57-68
- ⑤ 新居田純野「サオ語の小辞について」『長崎外大論叢』、査読有、14号、2011、pp.109-124、
- ⑥ 新居田純野「サオ語の従属節(条件節と連体節)について-サオ語話者によって仮名で表記されたサオ語によるサオ族物語を資料として-」『長崎外大論叢』、査読有、13号、2010、pp.115-130、
- ⑦ 新居田純野「台湾原住民サオ族の伝承物語と昔の生活」I. 伝承物語編『台湾原住民研究』、14号、風響社、2010、pp.130-151、

〔学会発表〕(計1件)

新居田純野「サオ語の particle について」類型論研究会にて発表、2013

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

新居田 純野 (NIIDA SUMINO)  
長崎外国語大学・外国語学部・国際コミュニケーション学科・教授  
研究者番号：30532915

(2) 研究分担者：なし  
( )

研究者番号：

(3) 連携研究者：なし  
( )

研究者番号：